

「東南アジアにおける近年の大規模水災害から得られた教訓～命をいかに守るか～」を開催しました（2015/3/14）

テーマ：第3回国連防災世界会議
 場所：東北大学川内北キャンパス

2015年3月14日に、第3回国連防災世界会議のサイドイベントとして『東南アジアにおける近年の大規模水災害から得られた教訓～命をいかに守るか～』と題したパブリックフォーラムを東北大学川内北キャンパスで開催しました。本パブリックフォーラムには、一般市民、建設コンサルタンツ、国土交通省、土木研究所 ICHARM, JICA, 大学関係等を中心に約53名の参加者を迎え、口頭発表、質疑応答等を通じ非常に活発な討議が行われました。

本フォーラムの議論を通じ、東南アジアの水災害の被害拡大要因として、『貧困』、『防災教育不足』、『不十分なインフラ整備』等が共通課題であることが明らかとなりました。今後の対応策としては、多くの予算を治水目的で使用する事が困難な東南アジアでは、『既存治水施設の有効利活用』や『衛星雨量情報を用いた洪水予警報システムの実装』等が重要であるとともに、命を守るためには、防災教育・啓発・避難訓練等を地域やコミュニティーで実施する Community Based Disaster Risk Reduction (CBDRR) の取り組みが必要不可欠であるという結論を得ることが出来ました。以下に、講演者・タイトルと当日の会場の様子を示します。

開会の挨拶：真野明教授（災害科学国際研究所災害リスク研究部門）

台風ハイエンの被害拡大要因と得られた教訓：Dr. Quimpo Maritess（フィリピン公共事業省）

ビルドバックベターに向けて、タクロバン市の取り組み：Mr. Gerald Paragas（タクロバン市）

近年のジャカルタ洪水から得られた教訓：Dr. Mohammad Farid（バンドン工科大学）

インドネシア国ワイエラ川天然ダム崩壊から5000人を救った防災普及啓発活動(概要と教訓)：

徳永良雄上席研究員(ICHARM, (独) 土木研究所)

人工衛星情報を活用した洪水予測技術の導入ーフィリピン・カガヤン川の事例ー：

宮本守研究員(ICHARM, (独) 土木研究所)

水資源開発と治水のはざままで ～タイ国チャオプラヤー川流域～：手計太一准教授（富山県立大学）



当日の会場の様子